

# 県道舗装補修工事における安全管理について

地区名 (一社)静岡県土木施工管理技士会 島田地区

会社名 岡村建設工業株式会社

執筆者 見崎 俊夫

(技術者登録番号 : 00097178)

## 1. はじめに

工 事 名 平成30年度[第30-18351-01号] (主)焼津榛原線ほか  
舗装補修(予防的修繕(公適債))工事(舗装工)

施 工 箇 所 静岡県 焼津市 一色 地内 ほか

発 注 者 静岡県島田土木事務所

工 事 内 容 切削オーバーレイ工

1工区(焼津榛原線) : 112m

5工区(静岡焼津線) : 115m

3工区(焼津大井川線) : 196m

6工区(静岡焼津線) : 66m

4工区(静岡焼津線) : 108m

本工事の目的は、予防的維持修繕を検討し適切と判断した段階で舗装の表層工の打換補修による破損補修を行うことで、舗装の長寿命化を図るものである。

当初、施工箇所は県道3路線6工区であったが、工事発注後の準備期間中に実施したFWD調査結果により、2工区(焼津榛原線)は当該補修工法は不適合であったため、上記の3路線5工区において補修を実施した。

今回の工事での安全管理の課題は、5工区に渡る施工箇所の施工を安全に進めることであった。本稿では、3工区と5工区の安全対策を例として以下に述べる。



## 2. 現場における問題点

### (1) 3工区の問題点

当該工区は、設計の標準断面の道路幅員は6.3mとあったため、当初は施工延長全域において辛うじて片側交互通行規制での施工予定であった。しかし、実際のところは施工区間中3分の1が幅員6.0m以下であったため、その区間は片側交互通行規制では施工が困難であると判断し、地元町内会及び発注者と協議し規制方法等の調整が必要となった。

### (2) 5工区の問題点

当該工区は、設計で夜間施工となっていた。施工箇所工区内には焼津駅を中心とした住宅地が広がっている焼津市街地であることから、ダンプトラックの通行や機械による騒音等が課題となった。また、夜間作業で視界が悪い中での作業員の安全確保も考慮すべき点である。

## 3. 対応策と適用結果

上記2点の問題点を改善するために講じた対策は、以下のとおりである。

### (1) 3工区の対応策

当該工区は大型車両の通行が多く、幅員が6.0m以下では片側交互通行規制下で路面切削等の大型機械使用による施工は不可能である。そこで、まず規制形態について発注者と協議した結果、幅員が6.0m以下の区間については、全面通行止規制で施工することとした。

そこで、上記について地元町内会及び工区の路線を日々通行する運送会社へ工事説明に伺い全面通行止期間内のみ迂回をお願いすることにした。施工の進捗を図るため、他工区施工時期等の調整も生じたが、迂回期間について要望を聞き、交通整理人を増員して安全を確保したことで、苦情もなく工事を終えることができた。



## (2) 5工区の対応策

夜間施工時の騒音対策として、施工区間及びその周辺の住宅地近辺での待機時間を減少させるため無線で常に連絡を取り合うこととした。施工区間内では常時1台のみ稼働する状態とし他関係車両は焼津漁港内でアイドリングストップ励行の上待機させた。

なお、作業員の安全確保として、夜間施工時において第三者から見て施工中であることの判別が付き易いよう、作業員は反射材を配して安全性能を考慮した高視認性安全服を着用した。着心地や機能性を重視した作業着を採用したことは、作業効率の向上にもつながった。



## 4. まとめ

本工事が無事完工できたのは、施工箇所沿線の地域住民の皆様へ工事内容の周知を丁寧に行ったことが要因の一つであった。

また、夜間工事は、騒音の発生は照度の高いバルーンライト等による視界的不快さから苦情が寄せられることも多いが、作業員が統一した作業着を着用して一丸となり、キビキビと迅速に作業する姿勢を示したことは、通行車両や地域住民の皆様のご理解、ご協力をいただける結果に繋がったのではないかと思います。

今後も、地域住民とのコミュニケーションを大切に、円滑に且つ効率よく現場が進捗するよう努力していきたい。